

平成29年度 家庭教育支援スキルアップ研修会

日時:平成29年7月4日(火) 会場:三沢市国際交流教育センター 参加者23名

青森県教育委員会では、「あおり親楽プログラム」を効果的に活用した学習を進行する「あおり家庭教育アドバイザー」を養成しています。この度、「あおり家庭教育アドバイザー」の登録者等を対象に、家庭教育支援者としての更なる資質向上とネットワークの構築を図ることを目的として、三沢市国際交流教育センターを会場に研修会を開催しました。

※「あおり親楽プログラム」とは…

子どもの理解や親の関わり方など子育てに必要な知識やスキルについて、親同士や家庭教育を支援する者が身近なエピソード等を通して話し合い、主体的に学ぶ参加型の学習プログラム。



1 講演・演習

テーマ 「プログラムを円滑に進めるコミュニケーションの在り方」

講師 青森県立保健大学 健康科学部 看護学科 准教授 川内 規会 氏

コミュニケーションの基本は「認める」ということです。ほめる時は、相手を理解するために、観察・傾聴・確認・共感が必要です。

伝えることの目的には、「気楽に聞いてもらえたら嬉しいな(挨拶や雑談)」と「真剣に聞いてもらわないと困る(主張、不満、プレゼン等)」があります。また、仕事上の立場や社会人としての内容を説明して人に理解してもらう(医療・福祉・教育等)には、責任を伴う場合もあります。

【「伝えること」と「伝わること」は違う】

- ・ **具体的にわかるように**伝えなくては、伝わらない。
- ・ **非言語で伝わるものはとにかく多い。**「聞き流し」、「反応なし」、「怒っている雰囲気」は要注意
- ・ わかるはずと思っていても意外にわかっていない

「当たり前」が当たり前ではない。



講師 川内 規会 氏

【コミュニケーションの基本姿勢】

- ・ 「何でわかってくれないの」ではなく **「わからない」を前提に。**
- ・ 伝えることは自分から行うことであり、相手に自然にわかってもらおうと期待してはいけない。
- ・ 表現してあげなければ伝わらない。

【プログラムを円滑に進めるために】～伝える時に気づいてほしいこと～

- ・ 思い込み、偏見によるブロック→「言っても無理」「興味ないはず」
 - ・ 感情的、精神的ブロック→「言いたくない」「疲れている」「面倒くさい」
 - ・ 戦いモードによるブロック→「怒っている」
 - ・ 長すぎる説明と短すぎる相手の反応時間→「教えてあげている」「自分本位になっていないか」時間の配分、伝え方、相手の反応をしっかり見る。
 - ・ 具体的に(何を話したいのか。どこまで話したいのか。)→自分の感想や意見は、今必要かどうか。
 - ・ 皆さんが参加できるプログラムになっているか。→全員参加でない場合でも、全員が考えることはできる。
- プログラムを円滑に進めることの基本は、全員がそれぞれに考えられるように運ぶことである。 **自分に関係ないと思わせない。**
- ・ 聞いてくれたことに感謝する。



受講者との意見交換



図形の形を言語で伝える演習

2 事例紹介「家庭教育アドバイザーとしてのエピソード」

- (1) 発表者 青森市家庭教育サポーター連絡会 家庭教育サポーター 秋元 美香子 氏
 ・平成25年度あおり家庭教育アドバイザー養成講座に参加し家庭教育アドバイザーとなる。

【青森市家庭教育サポーター連絡会】

- ・青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託
- ・青森市子育てサポートセンターを拠点として活動
- ・小中学生の保護者や地域住民を対象に、家庭教育に関する学習機会、相談機会及び情報提供

【親楽プログラムで大切だと思うこと】

☆「参加者に、何を伝えたいのか、何をもち帰って欲しいのか、プログラムを明確にして進行すること。」を心がけ5年間家庭教育アドバイザーとして取り組んできた。

- ・ある学校では、参観授業の後に教員も含め合計40人の保護者を対象に実施。
- ・事前の打ち合わせの際に、地域性、土地柄からあまり自分の家のことは話したがらない保護者が多いため、講話型で進めて欲しいとの希望があったが、何とか楽しんで自然に話ができるよう、対話型プログラムで行った。

【学校や市町村との連携でできること】

- ・一人で悩んでいる保護者が一歩踏み出すきっかけづくりの場になる。
- ・親も子どもも元気になる。
- ・地域の活性化につながる。



事例発表 秋元 美香子 氏

3 演習「スキルアップあおり親楽プログラム」

午後からの演習では、事例発表をしてくださった秋元氏も演習グループに加わっていただきました。グループで選んだエピソードを基に「親楽プログラム」を体験し、全体で良かった点や改善点、気付いた点等を共有しました。



演習前のアイスブレイク



ワーク活動（意見交換）



まとめの発表

〈参加者のアンケートから〉

- ・日頃からコミュニケーションの難しさに悩んでいることが多かったので、川内先生の講義がとても楽しく、家庭や仕事の支援の時にいろいろと実際に取り入れていきたいと思いました。
- ・今すぐ実践できることを勉強できて、とても良かったです。もっともっとお話を聞きたかったです。
- ・川内先生の笑顔にまず引き込まれました。非言語がそのまま伝わり内容と共にすばらしい出会いでした。もう少し時間をいただきたいかったです。
- ・秋元さんが「先輩アドバイザー」としてのスタンスをはずれず、平易な語り口であったこと、失敗も成功もどちらも語られていたので、参考になりました。
- ・平成25年度からアドバイザーをなさっているだけあり、経験豊富でプログラムを何回もやっているため、アイスブレイクでつかみ、進行の仕方が上手だと思いました。
- ・事例を聞きながら、「うちの村でも少しずつアドバイザーとして活躍してくれる方が増えたらいいなあ。」と感じました。